「近現代における奄美島唄の伝承の変遷に関する研究」

プロジェクト参加者

梁川英俊（人文学科多元地域文化コース 教授）、アンニ（人文社会科学研究科博士後期課程地域政策科学専攻 大学院生）

役割分担：梁川＝調査・資料収集、研究の総括、アンニ＝調査・資料収集

助成額

50万円

プロジェクトの目的

本プロジェクトは、近現代における奄美島唄の伝承というテーマについて、奄美群島と本土という二つの視点から調査研究を行うことを目的とする。今日奄美文化の表看板とも言うべき芸能である島唄の伝承は、1960 年代から伝統的な「シマ＝集落」の歌遊びではなく、レコード、カセットテープ、ＣＤ等の録音、島唄教室、ラジオ、ネット等が中心となっている。本プロジェクトでは、この変遷を歴史的資料に基づいて検証し、さらに島唄教室等を対象としたフィールドワークを行うことによってその現状を分析する。島唄の伝承活動に関する詳細な調査・研究は、奄美群島の近現代史のみならず、その本土との関係を明らかにすることにもつながる。「『鹿児島の近現代』教育研究拠点整備事業」の主旨とも直結するものである。

プロジェクトの内容

2022 年 11 月 12 日から 15 日まで尼崎を中心とする関西圏の島唄関係者を訪ねた。12 日に阪神線・大物駅近郊の大物会館で太原俊成民謡教室の練習を見学し、練習後は太原氏のご子息の正志氏をはじめとする生徒たちにインタビューを行った。また練習中は彌島康民氏（関西奄美民謡芸能保存会会長）、太原氏の唄仲間であった唄者上村藤枝氏の囃子を担当した田中真由美氏にも取材を行った。13 日は午前中に再度田中真由美氏に、また上村藤枝氏の甥である上村幸作氏にもインタビューを行った。その後、尼崎市立中央図書館および尼崎市立歴史博物館にて資料収集を行った。14 日は午前中に森俊光氏（前関西奄美民謡芸能保存会会長、奄美民謡 森民和会　島唄・三味線教室主宰者）にインタビューを行った。午後は武下和平教室出身の唄者榮百々代氏の三味線教室に参加し、その後インタビューを行った。15 日は奄美出身者の多い阪神線杭瀬駅近郊を探訪した。

2022 年 11 月 26 日から 28 日までは、奄美市一円において調査を行った。26 日は、梁川が執筆中の島唄の近現代史に関する著作、およびアンニが分析中の島唄「雨ぐるみ節」の調査のために西古見集落およびその周辺を取材した。また同日午後は同集落で幼

少期を送った唄者西和美氏を取材した。27 日午前中は鹿児島県立図書館奄美分館において文献調査を行い、午後は作曲家で東京音楽大学准教授の原田敬子氏の招待で、同氏が作曲した奄美市民歌のオーケストラ版の演奏会のため、奄美文化センターにて「交響譚詩『ベルスーズ奄美』と島唄の未来を紡ぐ」に出席した。終了後は再度西和美氏を取材した。

2023 年 3 月 27 日から 29 日まで、再度奄美市一円で調査を行った。27 日は唄者の昇喜代美、和美両氏に朝仁町の「奄美ちぢん・三味線製作所」にてインタビューを行った。その後、梁川は「郷土料理かずみ」にて唄者の西和美氏にインタビュー。アンニは原田氏からインタビューを受けた。夜は西和美氏の経営する「かずみ」で唄者里朋樹、楠田莉子各氏にインタビュー。原田氏とは共同執筆中の著書に関する打ち合わせを行った。28 日午前は唄者の山田武和氏に自宅でインタビュー。午後は奄美郷土研究会事務局長・山岡英世氏に鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にてインタビューを行った。

具体的なプロジェクトの成果

本プロジェクトの成果について、以下の 3 点から述べる。１）学術的成果、２）地元への貢献、３）島唄研究資料の充実。１）本プロジェクトの成果は、まず梁川が執筆中の奄美島唄の近現代史に関する単著に生かされた。同書は今夏南方新社より『「かずみ」の時代―唄者西和美と昭和、平成、令和の奄美島唄』というタイトルで発売される予定である。また梁川とアンニの共著論文「奄美における島唄教室の現状と可能性―2021～2022 年における島唄教室の調査から」を『人文学報』第 90 号に発表した。さらに本プロジェクトの成果を取り入れた、曲阜師範大学のオンラインセミナーや珍島アカデミック・ソサエティ主催の国際シンポジウムにおける梁川の発表は、中国や韓国の研究者や学生の関心も惹いており、本学との学術協定の締結や学生の留学等に関する今後の効果が期待される。２）については、先述の梁川の著書が、ラジオ・新聞等の報道によって、現在まで数百冊の予約を獲得しており、重要な地元への貢献の一つに数えられよう。また、太原島唄教室の生徒らの前で歌われたアンニの島唄は、外国人による異文化受容の好例として、大きな賞賛をもたらしたことも付け加えておきたい。３）については、島唄研究家の小川学夫氏から譲渡された録音資料を整理・分析して、デジタルアーカイブを構築した。資料全体の分析は今後の宿題であるが、歴史的に貴重な録音が多く、さらに分析・整理することによって、将来的に奄美の島唄文化の貴重な歴史的記録として重要な研究資料になるはずである。

プロジェクトの成果物

＜書籍等出版物＞

梁川英俊『「かずみ」の時代：唄者西和美と昭和、平成、令和の奄美島唄』南方新社、2023 年 8 月刊行予定

＜論文＞

梁川英俊、アンニ「奄美における島唄教室の現状と可能性―2021～2022 年における島唄教室の調査から」『人文学報』第 90 号、p. 73-86. 2023 年 2 月.

＜講演・口頭発表（海外）＞

梁川英俊「奄美民謡の伝承における諸問題」2022 年 10 月 8 日、珍島アカデミック・ソサエティ(Via Zoom)

梁川英俊「奄美の島唄について」曲阜師範大学オンラインセミナー、2022 年 9 月 5 日(Via Zoom)

＜講演・口頭発表（国内）＞

梁川英俊「奄美民謡はブルターニュにその兄弟を持つか？」奄美シマウタ研究会、2023 年 1 月 17 日

梁川英俊 「奄美のケンムン伝説について」、日本ケルト学会第 42 回研究大会、2022 年 10 月 23 日

＜メディア報道（国内）＞

梁川英俊「ラジオレター」あまみ FM、2023 年 4 月 16 日

梁川英俊「唄者の西和美を通し奄美を知る著書出版」『奄美新聞』2023 年 4 月 15 日付）

太原俊成民謡教室の練習風景（尼崎市）

練習後のインタビュー調査

「かずみ」にて（左：楠田莉子、右：アンニ）

杭瀬の「五色横丁」